

「風おこし活動のこれから……」

=理事長に就任して思うこと=



前星野理事長には豪雨災害に引き続くコロナ禍という、これまで経験したことのなかった困難な時期を、7年もの長い期間、理事長として奮闘して戴いた。不慣れな理事長を心配され「事務局の仕事は複雑。私がしよう」という本人からの申し出に心から感謝したい。

私自身は会の発足当初から「会員として」の気持ちであったが、実行委員、副理事長として組織の運営に関わることとなった。NPO取得後は、住みよいまちづくりの具体化へ向け出前講座（あすみんと共同事業）を中心に地域住民への意識啓発活動を取り組んできた。嬉しいことに最近では地域外からの出前講座の要請を受けるようになり、先輩から受け継いできた風おこしの名に恥じない、またNPOにふさわしい実力を付けていかなければ……と思うところである。

一方で会員の皆様と疎遠になりつつあるのでは……との思いを感じている。

組織は生き物であり歴史を重ねるほど変化が生じていく事も承知しているが、高齢になっても会員として留まり見守って戴いている皆様と、今年心を繋ぎあえる計画をと考えている。

いつでも、どこでも声をかけて戴きながら会の存続と発展に向け、力を尽くしたい。

(師岡愛美)

2023年度総会 ご報告

コロナ対策による自粛生活もようやく解除された今年の総会は、5月27日（土）ピーポート2階会議室において久しぶりに顔を合わせての総会を3部構成で開催する事ができた。「マスク着用は個人の判断で」との国の方針が示され、また役員交代の総会でもあり一人でも多くの出席者が望まれた。

議長選出後、経過・決算報告採決、新役員承認、今年の方針、予算案承認と議事はスムーズに進行。新理事長として、退任された星野前理事長7年間の労に謝意を述べると共に、「財政は年々悪化。会費のみ運営では数年で破綻する現状。NPOに相応しい活動への努力と助成金申請や、収益事業を取り組む活動が必要である」と強い危機感を述べた。高齢による退会の申し出がある中で、今年は3人の新会員を迎え紹介することができた。



3人の新規会員紹介

第2部は星野さんから「私たちが取り組んできたこと」と題し、限られた時間の中でパワーポイントを使って今後の防災意識の啓発として、九州北部豪雨後の活動を紹介。改めて組織の活性化と地域づくりへ向け、力を合わせていく事を確認できた総会だった。

第3部は総会終了後希望者によるランチ交流会を「一品香」で行った。参加者20名が其々の近況報告、会への思いなどを出しあいながら、久しぶりに楽しく互いに元気を戴く交流会となった。

(師岡愛美)

研 修 会

「男女共同参画の視点からの防災・復興について」

嘉麻市職員研修会プレゼンテーションより (2月9日)

総会の終了がかなり遅かったので、残された時間は30分もない。この時間では皆さんに伝わるような話にはできないと急ぎ、聴かれた方に伝わったかどうかは、残念ながら、はなはだ疑問である。(嘉麻市での講演時間は90分)

聴いて欲しかったのは、前段1. 2. の九州北部豪雨後のカレコレを除いた以下の3点。



3. 「災害対応力を強化する女性の視点」

～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～ について

4. 男女共同参画をめぐる 3つのキーワード (男女共同参画・ジェンダー平等・女性活躍)

5. SDGsとジェンダー平等



九州北部豪雨を経験し、男女共同参画の視点からのガイドラインに、私たちの取組が紹介されている。男女共同参画を柱に活動している私たちだ。3つのキーワードの関連性をしっかりと押さえておいて欲しいと思う。

そしてジェンダー平等はSDGsを貫いている考えであり、SDGsの実施においてジェンダーの主流化は不可欠な要素であることを念頭に、これからの活動を進めていきたいと思う次第である。

(星野洋子)

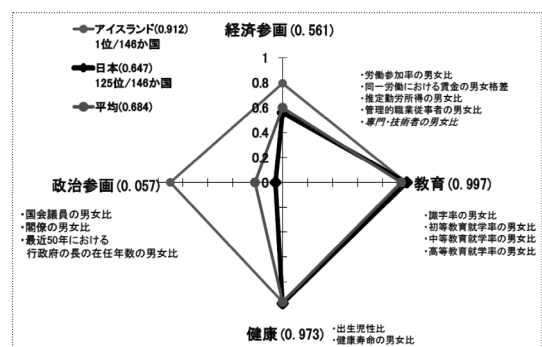


ジェンダーギャップ指数 125位 / 146ヶ国

前年から9つランクダウン

ジェンダーギャップ指数(男女平等格差指数)は以下の四分野の統計データから算出される。

- 経済 (労働参加率、同一労働における賃金収入格差)
- 政治 (管理職の男女比・専門技術の男女比・議会への参画の男女比)
- 教育 (識字率・就学率の男女比)
- 保健 (出生時性比・平均寿命の男女比)



男女共同参画局ホームページより

男女間の格差が全くない完全な平等が「1」

反対に完全不平等の状態が「0」、1に近い数値が格差が存在しないことを示す。

日本は146ヶ国中125位。「教育」0.997と「健康」0.973の値は世界トップクラスだが、「経済」は0.561、「政治」は0.057と低く、特に「政治」の低さが目立つ(138位/146ヶ国)。

「男女共同参画出前講座」～みんなで考えるこれからの地域づくり～

2023年4月30日(日) 参加会員 師岡・星野・大石・内山
松末コミュニティ協議会(場所:旧松末小学校舎跡)



旧態依然で男女共同参画が進まない現状に対し、コミュニティへの出前講座事業の第1回として、松末コミュニティに伺った。総会后45分ほどの時間だった。

篠原推進室長のご挨拶に始まり、導入を参加型の○×クイズでアンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)は誰の中にもあることを説明した。その中の一つ、『来客受付などを男性が行なうのに違和感がある』に対して70%近い住民の方が×を上げられたことが最も印象的で、住民の皆さんの家庭や地域に男女共同参画が既に意識づけられていると感じた。

パワーポイントでの講話は各コミュニティ役員の男女数を示し現在の状況を伝えた。女性男性にこだわることなく役員を選任し、また地域では隣近所ではお互い気に掛ける日常を大切にしましょうと地域づくりを啓発。最後に「風おこしの会」の活動について紹介した。

朝倉市は2023年度審議会等における女性登用率40%以上を目指すため、新組織機構において男女共同参画推進・青少年係を「男女共同参画推進室へ格上げしている。より一層男女共同参画を推進するため「風おこしの会」との今年度協働事業を実施していく計画になっている。

(内山育子)

今年度の出前講座の予定

7月13日(木)	13:30	金川公民館
7月22日(土)	9:30	蟬城公民館
7月26日(水)	19:00	安川公民館
8月7日(月)	14:30	甘木公民館

～風の音～

ここ数年梅雨末期になるとゲリラ豪雨が発生し、災害や被害が出るような大雨の時期がやってきた。日本の自然は不安定で地震・台風・大雨など天変地異が起これ人工物を一瞬にして無にしてしまうことがある。

ある公民館関係者対象の講演会の中で、現在の日本の防災の弱点として、都市化・快適さ・便利さ・気楽さがあると言われた。その中の『気楽さ』は人との関係を薄くして気楽に生きているため、地域コミュニティが崩壊し災害時に助け合うことができなくなっている。

日常の気楽さと災害時の助け合いをどう克服するか。その方法として社会教育の推進がキーになると次の3項目をあげられた。

- 1 地域コミュニティの強化
- 2 地域防災力の向上
- 3 市民防災力の向上

これは老若男女問わず必要なことだと思う。

これまで風おこしの会が行ってきた防災に関する講演や研修会、そして今年度計画している地域コミュニティへの出前講座の必要性を改めて感じている。(古賀芳美)

福岡県男女共同参画推進連絡会議

「ふくおかみらいねっと」の2023年度総会が6月24日(土)13:30～、クローバープラザにおいて開催された。通称「みらいねっと」は福岡県内の35の団体から構成され、情報交換・交流・連携し、男女共同参画社会を目的として設立された。

コロナ禍で制限された活動であったが、昨年度よりも、フォーラムや学習会の対面による会場開催が実現できた。事業内容は次の通り。

◎2023年3月5日(日)「ノルウェーの女たちは政治を舞台に社会を変えた」三井マリ子氏の講演会

◎2023年1月22日(土)「福岡県における議会ハラスメントを根絶するための条例」、福岡県議会議員後藤香織氏を講師に学習会

なお、2023年のみらいねっと役員として、「風おこしの会」理事長 師岡愛美が参加する。

総会終了後、35団体が六つのグループに分かれ交流会が行われた。

いずれの団体も、高齢化・会員数の減少に苦慮している現状が報告された。その中で読書会を開いて若い人の参加を促したり、賛助会員をクラウドファンディングで募集したりと新しい企画も披露された。

なお福岡県「翼の会」より、9月に法人化して活動を広げている沖縄県「翼の会」との交流会の予定が報告された。(野田暁子)



編集だより

今期より「目・芽・めっ」の編集に参加いたしました。

むずかしいことを やさしく
やさしいことを ふかく
ふかいことを おもしろく
おもしろいことを まじめに
まじめなことを ゆかいに
そしてゆかいなことを いっそうゆかいに

井上ひさし

このことばを体現できたらと願っています。

(野田暁子)

編集委員 野田暁子 石井正子 池田洋子

携帯やスマホからQコードアプリを使って、右のQRコードを読み込めば、風おこしの会のサイトへ簡単にアクセスできます。ぜひ試してみてください。



←フェイスブック

風おこしの会 HP →

